

■はじめに

校園長の皆さん、こんにちは。

はじめに、7月7日土曜日の未明に、青和幼稚園・北面擁壁が幅約37m、高さ7mにわたって崩落した災害についてお話しします。幸いにも園児や住民などへの被害はありませんでしたが、青和幼稚園の施設が使用できなくなりました。崩落については専門家が調査をして早急に復旧作業について検討し、教育委員会では青和幼稚園の保育をどこで、どのように行うのかを検討しています。大変ご心配をおかけしていますが、保護者や子どもたちに不安を与えないよう全力で取り組ませてまいります。

*7月定例校園長会は7月9日(月)に開催しています。青和幼稚園の保育は、7月11日(水)から19日(木)まで二名幼稚園で行いました。



さて、1年の4分の1が過ぎ、1学期もあと2週間となりました。1学期のまとめをするとともに、各学校園の学校ビジョンが今年目標のどこまで達成できたのか、また、達成できていないところの課題は何なのかを、振り返っていただきますようお願いします。

■「奈良市学校支援プロジェクト事業」

まず、本年度の新規事業「奈良市学校支援プロジェクト事業」のひとつである「はぐくみ道場」の参加者の中から、4人の教員に研修会で学んだことや感想を聞きましたので概要を抜粋して紹介します。

- ・事後指導の生徒指導でなく、事前指導の生徒指導の学級経営の手法や方法が学べた。
- ・話の仕方や聞いている側への配慮の仕方を参考にしたい。
- ・理想の学級作り、民主的な学級作りのヒントをいただいた。
- ・たくさんの先生方の参加があったことが励みになった。また、講師の先生に元気や自信をいただいた。
- ・うまくいったときの裏づけや失敗したときの原因を見つけることが出来た。また、失敗の経験をシェアしたことで自分ひとりが失敗しているわけでないと感じ方が楽になった。



—目的—

この「奈良市学校支援プロジェクト事業」の背景には、次のようなことがあります。学級経営がうまくいかないと、学校全体も荒れてきます。そのような学校では子どもたちの日々の学びを保障することもできませんし、学力の向上など望めません。そこで学校園を支援し、学校園のいわゆる「荒れ」の未然防止や沈静化、正常化を目的として「学校支援プロジェクト事業」を立ち上げました。この事業には次の3本の柱があります。

—3本の柱—

1. 学校支援

1つめは、学校支援です。学校訪問や、問題が起こったときに専門家にアドバイスをいただくプロジェクト会議の設置などで学校園を直接支援します。学校訪問は、元若草中学校校長である黒田八郎先生を学校支援コーディネーターとして、生徒指導担当の指導主事とともにチームをつくり、挨拶活動や校内巡回などを行います。黒田先生は「問題を起こすのも生徒、解決するのも生徒。生徒が変わらないなら自分が変ればよい。」との信念をもって生徒指導に取り組んでおられます。「ほうき1本で生徒は変わる。」という思いから、時には、清掃活動をされることもあります。黒田先生が自ら動かれる姿から現場の教員が学んでほしいと思います。



学校訪問では、校内の様子を観察して、管理職の方々や生徒指導担当者、学年の担当者と懇談しアドバイスを行うなどしています。既に4月からの訪問件数は、延べ49回を数えました。管理職のみなさんからは、学校園運営に関する助言が、学校園経営の点検・見直しの機会になっているとの声をいただいています。

2. 学習支援

2つ目は「寺子屋くらぶ」です。学習に興味を失っているなどの理由から授業に入りにくかったり、問題行動を起こしてしまったりする子どもたちに対して、学習を支援することで、子どもたちに「やったら出来た」「やれば出来る」という自信を持たせたいと考えています。そこで、このような子どもたちを支援するプログラムづくりや、このような子どもたちの支援に実績のある「[Teach For Japan](#)」*という団体と協働で連携して学習支援を行います。今年度は春日中学校と飛鳥中学校をモデル校として指定し、子どもたちに直接的な支援を行いたいと考えています。

*Teach For Japan … 子どもたちの学習環境の向上と、若者たちのリーダーシップの育成を目的に活動している教育NPO (Teach For Japan H.P.より)

3. 教職員研修

3つめは、教員への支援である「はぐくみ道場」です。はじめのビデオにもありましたが、原田隆史*氏を講師にむかえ、第1回目の研修会が先月25日に開催されました。当日は、夕方5時から9時までの開催にもかかわらず、17の中学校から68名、15の小学校から32名の参加がありました。



年代で見ると、20代が54パーセント、30代が27パーセントと20代～30代で80パーセントを超える割合でした。この研修に参加した年代が、10年後には、奈良市の学校教育の中核を担っていきます。そのことを考えると大変有意義な研修会であると思います。この研修会で原田氏は、経験だけに基づいて話をするのではなく、「こんなふうにするためには、まず、こうすればいい。そうしたら、こうなるから、こうしていったらいい。」と、納得できる論理で、具体的に説明されました。このことから、ベテランのノウハウを、データに基づいた裏付けや理論とともに若手教員に伝え、自信をもって生徒指導や学級経営を行っていくことができるようにしていく必要があると改めて感じました。

ここで、この研修会に参加された奈良県中学校生徒指導研究会長である長浜博己 三笠中学校長に研修会についてご報告いただきます。

<参加した理由>

- ・「率先垂範」を自分自身の、また、三笠中学校の生徒指導の行動目標としている。
- ・生徒指導は荒れた学校でするものではなく、「全ての学校で全ての教員が全ての領域」でするものである。
- ・この研修会の講師が魅力ある講師であった。

<研修会の様子等>

- ・書く・聞く・話す・考えるの繰り返しで3つのS（シンプル・スピード・ストレート）があり、高い緊張感によって集中度の高い研修であった。
- ・この研修会后、研修会の宿題を参加した教員と一緒にしたり、勉強会を開いたりしている。
- ・次回は、参加した教員を応援するために学年主任をつれて参加したい。

長浜校長のお話にもありましたが、校園長の皆さんには、研修を受けた教員の支えとバックアップをお願いします。例えば、「研修会、どうだった？」、「学級の様子は、変わってきたか？」という声かけや「A先生が、この間研修会で教えてもらった方法を、学年みんなで作って見たらどうだろう？」と後押しをしてください。「はぐくみ道場」に集まった教

員が、学んだことや受けた影響を生かして、学級を良くしていこう、学校を変えていこうと努力していることに対し支援をしてください。また、研修会で学んだことを参加した教員だけのものとせず、各学校で伝え、広げていく場を設定してください。

*原田 隆史 (はらだ たかし)

1960年大阪市生まれ。株式会社原田教育研究所 代表取締役社長

北海道・大阪・東京・京都・高知教師塾 塾頭

株式会社原田教育研究所陸上競技部 監督

埼玉県教育委員、高知市教育アドバイザー

ビジネス・ブレークスルー大学 経営学部 教授

・日本政策フロンティア アドバイザー

・日本教育推進財団 アドバイザー



■おわりに

原田氏は「どうやったら子どもが変わっていくのか、学級がよくなっていくのか、そのためには、自分が変わることだ。」とおっしゃったと聞いています。学校支援コーディネーターである黒田先生の「生徒が変わらないのなら自分が変ればよい。」という思いと同じです。

校園長の皆さんも、ぜひ、この「はぐくみ道場」の様子を見ていただき、自分の言葉でその様子や内容を各学校園で伝えて、教員が変わることで学校が変わり、学校が変わることで子どもが変わっていくよう、よろしく申し上げます。